

# 粉体受託測定に参入

## マーケティング全固体電池で需要 装置販売も

アルコニックス（西本善吾社長）は、粉体物性測定ビジネスを設立。3Dプリンタやマーケティング装置を手掛けるマーケティング粉体物性測定（微粒子）の受託事業を行う新会社「ハイテックナノ」を設立。3Dプリンタや全固体電池など、ハイテックナノ製品の需要を取り込む狙い。ハイテックナノの装置は主に2製品からなる。せん断操作を行

う粉体摩擦試験装置は、1回の試験で多くのデータを取得できることが特長。電池材の成形性や充填性の測定などに適する。もう一方の粉体強度試験装置は、微小な針での加圧に耐える粒子単位の強度が測定可能だ。粒子それぞれが同じ品質を保っているか確認でき、10μm×10μmという高分解能を有する。



ビジネスモデルは粉体の受託測定と試験装置の販売だ。非破壊検

査で実績を有するマーケティングのブランドを活用し、営業を推進。まずは測定結果を提供する受託測定で事業基盤を築く考え。受託測定での実績を積んだ上で、装置そのものの販売につなげる。

特に3Dプリンター用途の装置開発ではシナジーが期待される。同社が得意とする印章・マーケティング技術の応用を視野に入れる。鉄鋼製品への印字・マーケティング装置の国内トップメーカーという強みを生かす。

さらに、競合他社に遅れることなく需要を取り込む体制づくりや新しいビジネスモデル・アライアンス関係の構築を進めている。ナノシース（本社）名古屋市、島田泰裕社長）の試験装置は、電

粉体摩擦試験装置  
①と粉体強度試験装置

気自動車向けで検討が進む全固体電池向け粉体の分析でも有望だ。一方、マーケティングは表面探傷検査で自動車関連の取引を多く有する。自動車分野のノウハウやネットワークを粉体測定ビジネスにも活用する考え。西本社長は「技術力は特出している」と胸を張る。同社は技術継承事業を展開しており、経営者の育成にも注力する。社内公募で選ばれ

た20代の経営者であるハイテックナノの鈴木大輔社長は、「社長というめったにない機会。経営者として経験を積みたい」と意気込む。同社は近年、X線CT（コンピュータ断層撮影）の受託検査に参入するなど、品質保証の領域で事業の多角化を進めている。西本社長は「今後の伸びが見込まれる3Dプリンターなど、最先端の事業領域に経営資源を投入する」と明言。先を見据えた事業展開を徹底する構えだ。

粉体測定技術の土台は産業技術総合研究所発のベンチャーで、同社と提携するナノシースによるものだ。同社はナノシースからOEM（相手先ブランドによる生産）供給される試験装置を新会社「ハイテックナノ」ブランドで販売する。ナノシースの高度な粉体測定技術と同社が展開す

ることで、粉体測定ビジネスの本格普及を狙う。